

平成 30 年度第 1 回防府市図書館協議会

日時：平成 30 年 8 月 6 日（月） 午後 3 時～午後 4 時 30 分

場所：防府市役所 1 号館 3 階第 1 会議室

■出席者

（委員）藤村会長、山本委員、河村委員、河村委員、新田委員、山崎委員、
吉武委員、土井委員、山田委員（計 9 名）

（事務局）杉山教育長、原田教育部長、河田教育部次長、原田教育総務課長、
森川図書館長、徳永図書館管理室長

■欠席者 安光副会長

■傍聴者 1 名

■議事録

○事務局

定刻になりましたので、ただ今から「平成 30 年度第 1 回 防府市図書館協議会」を開催いたします。

それでは、防府市図書館協議会規則第三条第 1 項により、これからの会につきましては、藤村会長に議事進行をお願いいたします。

○議長

それでは、今回の会議につきましても前回と同様に、会議及び会議録につきましては、「公開」で進めてまいりますので、よろしいでしょうか。

（異議なしの声）

では、「公開」ということで進めてまいりますので、よろしく申し上げます。

それでは、議事に入ります。

「議題（1）平成 29 年度事業実施状況の評価について」、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

事前に送付しております「実施状況評価表」と「参考資料」で説明いたします。平成 29 年度事業実施状況の評価についてですけれども、図書館の事業実施状況に対する自己評価を、委員の皆様にお送りして、コメントをいただきました。いただいたコメントを参考資料としてまとめております。同じ主旨のコメ

ントにつきましては、一つにまとめました。また、事業の実施状況の説明の中でお答えできるものについては、資料に入れておりません。

それから図書館協議会の役割として、図書館事業の点検・評価ということがありますので、このコメントを図書館協議会の意見としてまとめていただくことが必要です。事務局で、皆様からいただいたコメントを要約しまして、事業実施評価表の各項目の後に、図書館協議会の意見（案）という形で入れております。これは、市のホームページでも公開いたしますので、内容や表現について、皆様の御意見をいただきたいと思っております。

まず、1から7の大きな項目がありますけれども、それぞれの項目について図書館長から事業の実施状況と図書館の自己評価について報告し、続いて私のほうから協議会としての意見（案）について御説明いたします。

○図書館長

あらかじめ私どもの自己評価を読んでいただき、コメントもいただいておりますので、平成29年度になって大きく変わった点を中心に説明していきたいと思っております。

まず1-（2）の事業実施状況を御説明いたします。FMわっしょい「防府市からのお知らせ」に毎月第2・4木曜日、職員が出演をいたしました。平成28年度までは、決まった曜日に定期的に出演ということにはなかったのですが、平成29年4月から職員が定期的に出演して、図書館からのお知らせやイベントの紹介をするようになりました。毎回、職員が交代で、それぞれの担当分野を中心にお話をしています。同局の「ビブリオバトル」告知番組を3回、図書館からの提供番組として放送いたしました。1回が55分間の番組ですが、この番組にも職員が出演してビブリオバトルの広報をしております。それから山口ケーブルビジョンの「まちかどNEWS」（5/15）に職員2人が出演しまして、「子ども読書フェスティバル」及び「ビブリオバトル」についての広報活動を行いました。

それから館内施設、設備等の安全点検を定期的を実施した件ですが、図書館の定期点検については14項目ありまして、毎日定期的に行う機械警備を始めとして、毎月1回行うもの、月に数回行うもの、年1回行うものとあります。14項目の点検を行う日にちについては、様々でございます。

2ページ目ですが、移動図書館については、平成29年度は6コース36ステーションで運行しております。ステーションについては、半年毎に見直しを行っております。平成30年度からはステーションを1つ追加して、37ステーションで運行しておりますが、そのことを平成29年度中に決定しております。移動図書館の利用状況は、皆様方に既にお配りした図書館年報の平成29年度版の中に運用状況・利用状況をお示ししております。23ページから25ページにわたっ

て紹介をしておりますが、1つのコースが地域ごとに組んでありまして、利用状況についてはグラフでお示ししております。これにより地域ごとの利用状況が分かりやすいようになっております。

(4) ですが、平成29年7月5日から国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」閲覧及び複写業務を開始しております。国立国会図書館が持っている資料がデジタル化されておりまして、一般の人が国立国会図書館のホームページを開いて閲覧及び複製できる資料は約50万点あるわけですが、それ以外に約150万点、合わせて約200万点のデジタル化された資料を、図書館の特定のパソコンで閲覧でき、かつ複製できるという非常に便利なサービスです。

○事務局

1について補足します。本日お配りした防府市立防府図書館個人館外貸出状況というA4の一枚ものがありますが、こちらに年報より少し細かく区分けしました利用者内訳と貸出資料の分類別の内訳をいれております。

まず1項目の図書館協議会として事務局がまとめた意見(案)についてですが、(1)(2)(3)(4)の項番に対応した順に入れております。

○館長

補足をいたします。最後の御意見で「窓口の対応が良くなった。専門的な研修も併せて計画的な研修の継続を望む。」というお褒めの言葉をいただいておりますが、システムがかなり複雑、高度になってきておりますので、それに十分対応できないことが時折あります。予約や検索等についても、機械が高度化しておりますので、やや不慣れな職員もおります。更なる職員研修を行いたいと思います。ほとんどできてはいるのですが、窓口が忙しかつたりする時に、十分対応ができなかったりすることがありますので、今後も研修・研鑽を積んでいきたいと思っております。

○議長

ただ今の図書館からの説明と事務局からの委員さん方の意見のまとめ案について、御意見がありましたらお願いします。

○委員

(3)のところ、評価がAになっておりますが、全体を見たところ図書館というか事務局の方々の評価が、かなり厳しすぎるように思えます。

たとえば、以前、A・B・Cの基準について、Aは評価通り実施していて一定の成果が上がっておればAに値するという話がであったと思うのですが、(3)はそれでいいのですが、(1)のところは、十分目標冊数に到達、超えていると考えれば、自己評価をBとしておられるけれども、Aでよいのではないかと思います。非常に謙虚な姿勢が見られるなど思っているのですが、自己に厳しく他人には

優しくという館長をはじめ職員の皆さんの優しさがにじみ出ているような気がしてなりません。ひとつは、郷土関係の冊数の不足があつて厳しくしておられるのではないかと考えたのですがいかがでしょうか。達成しておれば、遠慮なく評価 A でもよいのではないのでしょうか。

○館長

Bについては、おおむね計画どおりだが不十分な点や今後の課題が残つたということでございます。

今、委員がおっしゃつたとおり、郷土・地域資料に関して、数は一応クリアしたのですが、もっと収集できたのではないか、調査が十分でなかったのではないかという反省をしております。山口新聞には郷土関係の自費出版をはじめとして、様々な出版物の紹介記事が非常に詳しく掲載されています。郷土資料だけでなく図書館に関わる情報、イベントなどの様々な情報も、細かく網羅してあるので、今年度からはこの山口新聞を職員が毎日交代でチェックして、郷土資料に関わる情報や図書館に関わる情報、諸々のイベント等に関わる情報を収集して、地域資料の充実ができるように、努めているところでございます。

そういうことで、昨年度は不十分な点があつたということです。

○議長

1については、この案でよろしいでしょうか。では2についてお願いします。

○館長

(1) では、「第7回防府市子ども読書フェスティバル」(5/28)、「第27回防府図書館まつり」(10/14)を開催しましたが、この2つのイベントについては、実行委員会やボランティアの皆様方との協働で実施したものです。

そして「防府図書館利用者懇談会」(12/14)を開催しました。参加者は13人で、もう少し人数が多くても良いかと思ひます。

(2) では、「防府図書館ボランティア連絡会議」(1/25)を開催しました。ボランティアの中から参加者15人でした。また「図書館ボランティア養成講座」を4回(2/1、2/8、2/15、2/22)にわたつて開催しました。それぞれ毎回20人以上の参加がありまして、内容的にも充実した講座が展開できたと思ひております。

反省点は、利用者懇談会でいただいた意見を、図書館では整理をしておりますが、公表をしていないことです。そういうことも含めて、改善していかなくてはいけないと思ひております。

○事務局

項目2の協議会の意見(案)については、3ページにあるとおりです。

○館長

補足をいたします。子ども読書フェスティバルについて、家庭の日に開催し

てはどうかというお話が出ておりますが、講演会講師の都合等もありますので、その辺りも踏まえて、今後検討していきたいと思っております。

○議長

今年は、参加者が多かったのですが、やはり引き続き子どもの参加は少ないという状況ですね。図書館まつりは、8/9の午前中に実行委員会がありますので、そこでこの提案が出ていた話をしておきたいと思えます。

○委員

今、家庭の日の話が出ておりましたが、第3日曜日が難しければ、日にちを変えてやって欲しいと、小中学校に呼びかけているところです。館長の方から家庭の日に対する配慮をいただいております、ありがたく思っております。

○議長

では、項目2について他に御意見がないようでしたら、3について御説明をお願いします。

○館長

4ページ3-(1)ですが、ミニ資料展示に関しては、時宜に即した内容で、臨機応変な対応ができるようにしております。ビブリオバトルは、平成28年度は1回、平成29年度は3回開催しました。子ども読書フェスティバルの時は、参加者が多かったのですが、それ以外の時は参加人数が少なかったということで、今後投票参加者を増やしていく努力が必要と考えております。現在、7月と11月は、図書館の研修室で開催しているのですが、たまたま通りがかった人が、ついでに参加してみようかと思えるような、もっと気軽に参加できる場所で開催してはという御意見もいただいておりますので、今後、このことについても検討していきたいと思っております。

(2)ですが、さまざまなボランティア、学習サークル等の活動をホームページ上に随時掲載しております。催し物等に参加された方の中には、ホームページをご覧ください参加されたとお聞きすることがありますので、生涯学習グループの活動について、今後もホームページに掲載していきたいと思っております。

○事務局

項目3の図書館協議会の意見(案)については、4ページにあげておりです。

○議長

ただ今の事業実施状況と協議会の意見(案)について、御質問等がございましたら、お願いします。

○委員

コメントに書いた気がしているのですが、資料展示は現在図書館の4か所で

されていると思うのですが、私が注意して見ているのは、新刊図書のところのコーナーなのですが、展示のテーマについて、今なぜこれなのかというところが分かりづらいところがあります。作家で亡くなった方たちの作品をタイムリーに特集するのは、とても分かりやすいし、それぞれはとても面白いように展示してあるので、なぜ今これが展示してあるのかということを利用者の方に分かりやすくすれば、もっと利用しようと思うのではないかと思います。

○館長

なぜこの展示なのかという説明が十分できてないところがありますので、利用者に分かりやすく説明し、資料の利用にも結びつくよう、工夫していきたいと思えます。

○議長

まとめの下から2番目の、夏休みに子ども達に向けて専門知識を発信というのは、具体的にはどのようなことですか。

○事務局

コメントの中にはブックトークなどでということを書いてありましたので、夏休みにいろいろな行事が催される中で、サークルの行事の中でも図書館員がブックトークをしておりますけれども、もっと積極的にということはこちらでは解釈したのですが。

○議長

意見を出された方、これでよろしいですか。

○委員

子ども達が、なかなか図書館に来ないとか本を読まないという現実があるという話が、以前この場に出ていました。40日という長期の夏休みがありますので、子ども達が図書館または地域文庫などに出向いてきた所で、図書館の方から直接、本の楽しさや夏休みの宿題で使う科学本の使用の仕方など、出前講座のように専門知識を使って、子ども達にノウハウを教えて欲しいという意味で書きました。ブックトークも活用して欲しいと思えます。

○委員

子ども達の読書活動のほうに入れたら、分かりやすいので、6項目の子ども達の読書活動を進めていく方に入れるといいと思えます。

○事務局

生涯学習グループの中でのブックトークと考えると、こちらに入れたのですが、内容から言えば項目6になると思えますので、こちらに入れたいと思えます。「夏休みなどにブックトークや出前講座などで」という補足を入れたいと思えますが、よろしいでしょうか。

○議長

それでは、項目4の説明と意見のまとめ(案)をお願いします。

○館長

今後も防府史料を継続して刊行していきたいと思っておりますが、そのためには、郷土史や郷土文学等に関する深い知識を持った職員を養成する必要がありますので、折を見て必要な研修を行っております。昨年度は9月に、「山口の歴史おでかけ講座」を使って出張研修会を開き、県の文化振興課に講師を斡旋してもらっています。そして同じ日の午後に山頭火ふるさと館で、郷土文学に関する職員研修を行っております。山頭火についての知識を深めると共に、山頭火ふるさと館にパネル展示をしております防府関係の文学者に関する知識を深めるための研修をしました。今後もこうした研修を続けていきたいと思っております。

○事務局

項目4に記入したとおりでございます。

○議長

では、委員さんの中から、御意見・御質問がございましたら、お願いします。

私のほうから、質問をいたします。

まとめ(案)1行目の分かりやすく提供してというところの「分かりやすく」というのは、どういうことか説明をお願いします。

○委員

地理的なものとか、人文学的なものとかが、バラバラで展示してあるような気がします。私も防府がどういった人間が集まってできたのかなどに興味があって見た時に、すごく資料が分かりにくかったので、そういうものを1つのコーナーにしてもらったら分かりやすいのではないかと思います。

○議長

図書館、いかがですか。

○館長

図書館の本は、一般的には日本十進分類法という分類方法に則って並べてあります。郷土資料は、郷土資料コーナーに、別置しておりますが、その中で防府市関係と山口県全体関係を分けて、それぞれ日本十進分類法に基づいて並べています。ただこれは、一般の利用者には分かりにくいものようです。現在、日本十進分類法がどういうものか分かるよう、館内に何か所か掲示はしているのですが、目に付きにくい所にあたりして、十分、掲示の効果が現れていないように思います。もっと分かりやすく掲示しながら、利用しやすい環境を作りたいと思っております。御意見、ありがとうございます。

○委員

私も、郷土資料について調べる時に分かりにくいことがありました。分類が

分かっていなくても防府のことを調べたい、知りたいという人が、そこへ行けば分かるということが、利用者への親切ではないかと思います。誰でもわかるように敷居を低くすることも市立図書館のあり方ではないかなと思います。

○館長

確かに、おっしゃることはよく分かります。こちらは、防府市の関係と山口県との関係をそれぞれまとめて排列しているのですが、一般の利用者に分かるようにするためには、案内が十分ではないのだと思います。改善に努めたいと思います。

○議長

では、この1行目のところは、「資料案内など」という言葉を書き加えますか。

○事務局

はい。では、「分類方法や資料案内などで分かりやすく提供して欲しい」でよろしいですか。

○議長

1のところにも職員研修について出てきたのですが、郷土資料については特に専門職の養成が重要になります。国立政策研究所などの研修など、今まで取り組めなかった研修が、財団になって職員の派遣がされていますが、その辺りを御説明いただければと思います。

○館長

直営の時には、旅費等が取りにくくて職員研修が十分出来なかったところがありますが、財団の指定管理になりましてからは旅費が確保できるようになりました。文部科学省が主催して「図書館司書専門講座」が東京で約2週間にわたって行われるのですが、全国から約50人から60人の中堅の専門職員が集まって、非常に密度の高い、内容の濃い研修をするものでございます。これに昨年度は、職員を派遣することができました。その他、これも文部科学省が主催して行う研修の1つですが、中国・四国地区の「図書館地区別研修」に2人派遣しました。これは山口市で、4日間にわたって、内容の濃い研修が行われました。その他、多くの研修の機会を見つけて、職員の勤務体制等も総合的に考慮しまして、できるだけ参加をするようにしております。館の内外で昨年度は全部で35回研修を行っております。図書館の専門的な研修や利用者の安心・安全を守るために必要な救命講習、あるいは人権研修等も含めまして35回、延べ人数にして271人が参加しております。現在図書館は、パート職員も含めて24人が勤務しているので、1人あたりに換算しますと、各々10回以上の研修の機会があったこととなります。

○議長

今後とも、職員研修に努めていただければと思います。この項目については、この意見（案）でよろしいでしょうか。

では、続いて項目 5 にいきます。図書館と事務局からお願いします。

○館長

それでは、6 頁 5- (1) でございます。学校図書館オンライン・ネットワーク・システムへの対応が可能となりましたので、システムを活用した学校支援図書の貸出に力を入れてサービスを行いました。件数は 143 件、延べ貸出冊数が 1, 598 冊でございました。

その他、公民館・出張所会議で定期的な広報活動を行いました。毎月、文化福社会館で行われる公民館・出張所会議に、図書館職員が出向きまして、図書館サービスの広報活動を行っております。

(2) は、県立図書館の講師派遣レファレンス研修会や、他の図書館や、防府市文化振興財団内の他機関と連携した職員研修会を、昨年度 13 回開いています。

そして防府市文化振興財団内の連携部会の会議を毎月 1 回開きまして、連携について検討・協議しております。資料展示やイベント等において、財団内のアスピラートやソラール、山頭火ふるさと館との連携企画を実施いたしております。年間で、10 件に上っております。

○事務局

コメントの中で、学校図書館オンライン・ネットワーク・システムを活用して、学校間で相互貸借された冊数はどれくらいだろうかというコメントがありましたので、学校間で相互貸借された冊数は、305 冊でした。これも、学校司書が把握している範囲で集計しましたので、先生方が個人的にやり取りした冊数は含まれておりませんので、実際はもう少し多いかもしれません。

項目 5 の意見（案）については、資料のとおりです。

○議長

委員の方から、御意見・御質問がございましたら、お願いします。

○委員

8/3 に防府市小学校学校教育研究会図書館研修部の夏期研修会を行いました。その際に市の図書館管理室及び図書館の方からも情報交換会ということで来ていただいて案内をしていただいたのですが、実はその後、困っていることとして、選書会のことが出ました。

選書会とは、子ども達にどんな本を学校図書館に置いてほしいかという希望を取る会です。たくさん本をざっと並べておいて、子ども達に読みたい本などのアンケートを取って投票により本を購入し、例えば 2 学期から学校図書館に受け入れ、貸出しをするというものです。実際は、各学校の図書館担当と学校司書が、その準備を一緒にやっているのですが、その選書会用図書に学校や

学校司書が子ども達に読んで欲しいと思う読み物が、最近非常に少なくなっているということと、図鑑の冊数が大変多いのが問題になっています。書店に選書会用の図書を持ってきていただくようお願いするのですが、こちらからの要望（読み物を多く入れて欲しいことなど）になかなか対応がされないというのが問題になっています。その会議のときに意見として出たのが、例えば市立図書館で、新刊や準新刊をリストに挙げていただいて、貸出してもらえるのかという質問が出ました。これについては、いかがですか。

○館長

そういうリクエストへの対応は、常時行っておりますので、可能でございます。

○委員

わかりました。ありがとうございます。

○議長

他にありますか。

一行目の「学校への人的・物的支援体制の確立が必要」とありますが、これは具体的には御意見があるのでしょうか。

○事務局

内容としては、ネットワーク・システムを活用している学校も多いので、今後の成果が期待されるという流れで、もっと充実した方がという意味で解釈したので、「ネットワークの活用の中で、人的・物的支援を更に期待する」という文章でいかがでしょうか。

○議長

ネットワーク・システムがより利活用されるようにということですかね。ここについては、もうちょっと詰めていただけるといいかと思います。

他によろしいですか。

○事務局

貸出など図書館からのサービスの提供もされている状況です。物としては図書、貸出専用図書の充実ということも図書館として継続してやっていくということになっておりますので、「事業拡充の中での支援の充実が必要」という文章でよいかと思います。

○議長

わかりました。その方向で整理していただきますようお願いします。

それでは、項目6の子ども達の読書のところをお願いします。

○館長

資料1の7ページ(2)ですが、図書館において、さまざまな活動をしていらっしゃる皆さんと一緒に読書活動の推進をすることにより、子どもの読書活動

推進に拍車をかけたいと考えております。多くのボランティアの皆さんが非常に熱心に取り組んでいらっしゃると思いますので、図書館としてもそれに対応する形で、皆さんと一緒に読書推進に取り組んでいきたいと思っております。

○事務局

コメントまとめについては、資料1のとおりです。

○委員

项目的には、大きい1-(3)のわっしょい文庫でございますが、項目6の子ども読書活動推進に大変役立っていると、平成29年度の図書館年報で拝見させていただきました。子どもの読書は、いろいろ企画をしていただいておりますが、わっしょい文庫は地道に子どもの読書推進に取り組んでいただいていると思っております。特に右田小学校のステーションができたことによって、貸出冊数や貸出者数が飛躍的に伸びております、こうやって、それぞれ学校ごとにわっしょい文庫を派遣していただくことにより、子ども達の読書活動が伸びるのは、素晴らしいことだと思います。ありがとうございます。

今後とも、学校側がわっしょい文庫を受けるかどうかということに関わってくると思いますが、学校としても、少しでも子ども達に読書の機会を増やせるよう、校長会でも話を進めていかななくてはいけないと思っております。

○議長

ありがとうございます。

○委員

1行目にあるブックトークと、最後から2行目にあるブックトークが重なっていてわかりにくいので、「調べる学習支援に対する支援をこれからも進める」としていただきたいと思っております。

○議長

それと、先ほどの項目3の中の1行を項目6にとということでしたね。

○委員

この評価の中に書かなかったのですが、図書館に入るとすぐのところに、本日の図書イベントやサークル活動の大きな案内板があるのですが、あれがあることによってかなり多くの子どもが、読み聞かせの会に来てくれるようになりました。すごく効果がありました。あと、お話のへやのところにも置いていただいているのですが、ありがたいことだなと思いました。

○館長

今、委員がおっしゃったことは、「防府図書館ボランティア連絡会議」の中で、日頃、献身的に活動をなさっているボランティアの皆様から出された、館内に表示をして欲しいという御意見を反映したものです。会議の中でいただいたご意見を具体化したものでございます。

○議長

それでは、項目7をお願いします。

○館長

7-(1)は、昨年度11月から、視覚障害者のための、音声を使った利用者開放インターネットサービスを開始しました。現在、インターネットコーナーに10台の利用者開放端末が設置してありますが、そのうちの1台を視覚障害者の方のために、音声で対応できるものにしております。ただ、このことについて、まだ十分な周知ができておりませんので、広くPRしていきたいと思っております。

7-(2)では、ボランティアの皆さんと連携協力し、点訳資料、音訳資料、布絵本などを製作いたしております。これについてもホームページなどで広報しているのですが、紹介の仕方が十分でなく分かりにくいので、行っているサービスが、表にはっきり出るような工夫をして、障害のある方に充分知っていただく努力が必要だと思っております。

○事務局

項目7については、(3)の御意見がありませんでしたので、入れておりません。あと、どの項目にも入らなかったのも、「アクティブシニア向けの取組も望む」という一文を、こちらに入れております。

○議長

まとめの案の中で、下から3行目の「障害者や高齢者の利用状況の把握と必要とされるサービスの精査が必要」とありますが、ここの「精査」は具体的にはどうでしょうか。

○委員

本当に必要とされているのが何か分かっているのか、いろいろやっけてはいるけれども、それを必要としている人たちの視点で見直してみる必要があるのかなということです。大活字本が置いてあるけれども、そこに置いてあってそれを必要とする人たちが使いやすい場所にあるかという視点が必要かなと思って書きました。

○館長

障害のある方々が更に図書館資料を利用しやすい環境づくりに努めなくてはならないと思っております。どういう内容のものを揃えれば、障害のある方々の利用が増えていくかということなどを、しっかり考えながら取り組んでいかななくてはならないと考えております。御意見ありがとうございます。

○議長

最初にお配りいただいた個人館外貸出状況を見ますと、年齢別の利用者数で、高齢者の利用がとても多いのですが、図書館は高齢者の健康寿命に大いに役立つ

っているわけですし、以前にも申しましたが、認知症予備軍の高齢者のためにも、いろいろなサービスを展開している図書館もありますので、高齢者サービスの充実についても、少し意見の中に触れて入れていただきたいと思います。意見（案）の中にも、いろいろと高齢者については出ていますので、よろしくをお願いします。

○事務局

「サービスの拡充」という言葉を入れた方がよろしいでしょうか。

○議長

図書館が高齢者にとって、いろいろと役立っていることと、無料の施設であるため、高齢者が利用しやすいのでサービスの拡充に努めるということを入れていただければと思います。事務局でまとめていただけたらと思う。

○委員

それでは、全項目について、図書館からの御説明と事務局からの意見（案）のとりまとめが終了いたしました。全体について何かございましたら、お願いします。

○委員

今回、委員委嘱をされて、この度の実施状況の評価について関わってきたのですが、基本となるのは、「防府市図書館サービス振興基本計画」ですから、これに基づいて目標管理別に、事務局が事業計画あるいは実施状況等を説明していただきながら、その項目についても重なり合わないよう、私たちはいろいろと話し合ってきたと思うのです。

それなら、大変だとは思いますが、できればその評価に基づいて図書館年報も、基本計画に基づくものにしていただくと、非常に評価がしやすいし、次の課題が何かということも分かりやすいというのが正直な思いですし、願いです。

なかなか一度にはできないと思うのですが、推進母体がこの図書館協議会ということであれば、市民の目的とか、思いであるところを集約する場であればこそ、この基本計画に則った目標別の実施状況あるいは評価をし、そしてその評価に基づいた次年度の課題という形でのまとめを、図書館年報にいただけると、私たちも評価がしやすいなと思っています。

○議長

今の話は、図書館年報の4ページからでしょうか。そこで対応できるのではありませんでしょうか。図書館としては、いかがでしょうか。

○館長

箇条書きになっている説明を集約する形で自己評価をしておりますが、この中で「防府市図書館サービス振興基本計画」に基づく評価という形を取り入れることは可能だと思いますので、まずそこから始めたいと思います。最近は山

県下の図書館も様々な様式の年報を作るようになって、スタイルも大分変わってきたのですが、かつては山口県図書館協会が作った図書館年報の様式がありまして、防府図書館の場合は、それに比較的忠実に年報を作っております。基本的な年報のスタイルを踏襲しながら、時宜に即して様式を少しずつ変えてはきていますので、自己評価の中で委員の御提案を反映していく努力をしたいと思っております。

○議長

長時間にわたり御協議いただきありがとうございました。本日は、平成30年度の第1回目の会議ということで、平成29年度図書館事業実施状況についての説明を受け、評価についての協議を行いました。

防府図書館が、今後ますます市民にとって魅力ある施設となることを期待しております。

これをもちまして、本日の議題等については、すべて終了しました。

委員の皆様、お疲れ様でした。

○事務局

それでは以上をもちまして、「第1回防府市図書館協議会」を終了いたします。皆様、気をつけてお帰りください。

本日は、ありがとうございました。